

ソフト系IT企業実態調査結果概要(令和6年度版)

1. 調査対象 協会会員社及びソフトビジネス研究会会員社等
有効回答社 76社(非ITを含めた全有効回答社79社)
売上に関する有効回答社(IT)66社、経常利益に関する有効回答社(IT)62社

2. 主な調査結果(以下数値はソフト系IT企業分)

(1) 売上



売上額は、対前年売上増加企業は減少したものの、前年比9.5% 32億円増加の365億円であり、過去最高値を引き続き更新した。リモートワークやDX等ITに対する旺盛な需要が背景にある。

なかでも、ネットワークセキュリティや自社製品を持つ企業の売上増加が顕著である。

(2) 利益



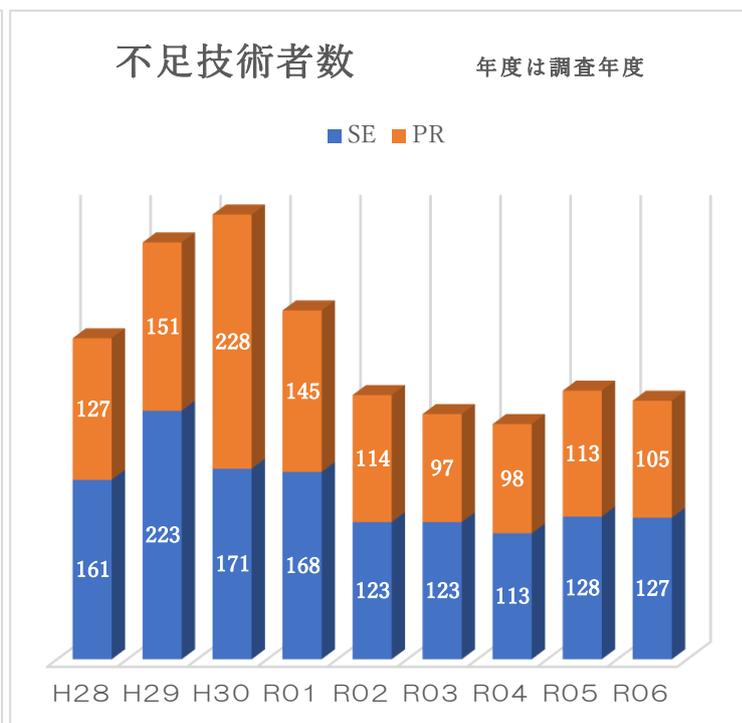
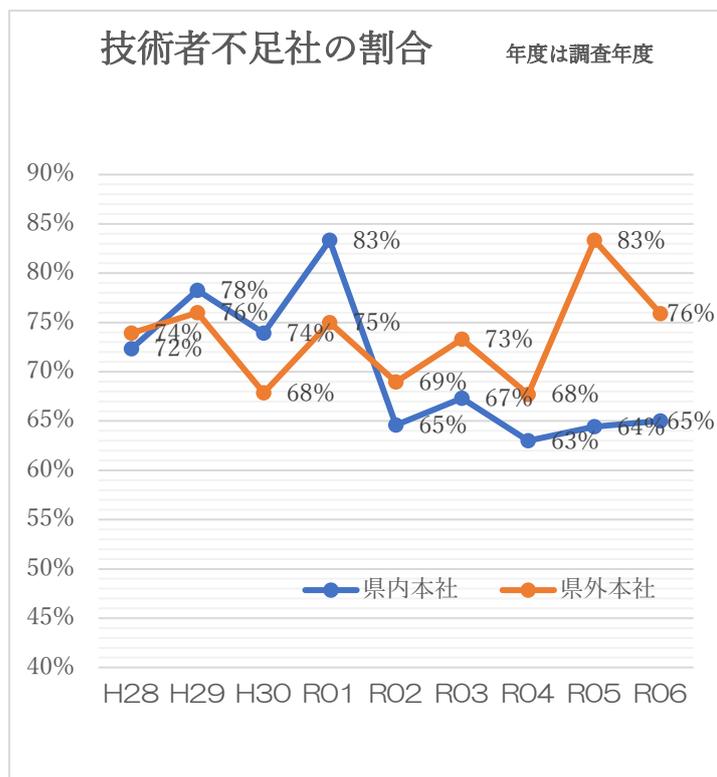
利益は、8.3%増加の27億円であった。調査開始来の最高値である。諸経費が続騰するなか、好調な売上を背景に、各企業の経営努力により利益確保がされたものと考えられる。

(3) IT従事者数



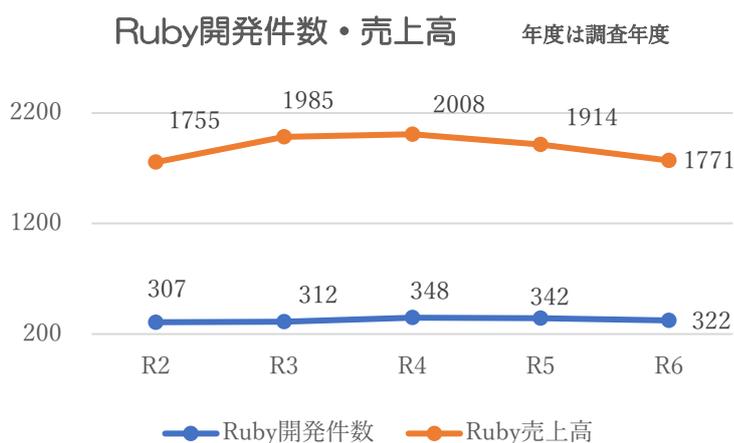
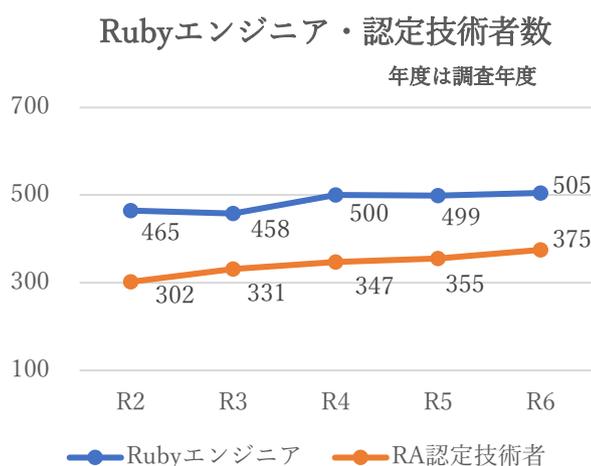
県内IT事業従事者は、6.6%117人増の1,901人となり、過去最高値を更新した。慢性的な技術者不足であるIT業界で、コロナ流行による業況悪化懸念による人材採用の手控えが終わり、好調な業況を背景に堅調な人材確保の動きとなっている。

(4) 人材不足感



調査に応じた IT 企業が不足と感じる技術者は、システムエンジニア 127 人、プログラマー 105 人の計 232 人で、昨年と比べ、9 人減少の微減となった。不足感を持つ企業割合を本社所在別で見ると、全体は、68%であるが、県内本社企業ではこの率が 65%である。県外本社企業では 76%であり、県外本社 > 県内本社の傾向であるものの、人材不足解消の動きが県外本社企業で顕著である。

(5) Ruby 関連



非 IT 企業を含め Ruby エンジニア総数は 505 人で 6 人の増加となった。Ruby アソシエーション (RA) 認定技術者は、20 人増加の 375 人である。IT 企業における Ruby による開発売上は 7% 減少の 18 億円である。Ruby による売上、システム開発件数で見ると、やや減少傾向にある。